

皆さん、おはようございます。

今日はとてもスーツ姿が良く似合い眩しいくらいです。4月は出会いの季節と言います。皆さんは新しい出会いがたくさんあったらと思います。夢あり、不安あり、ドキドキ、緊張する毎日が続いていることでしょうか。もう緊張も解けてきたでしょうか。

皆さんが新しく勤務に就いたときに、一番先にやったことは何だったでしょうか。恐らく、私の村でもそうですけれども、宣誓書、これを読み上げて署名をしたと思います。また、所によっては、読み上げではなくて、自分で実際に宣誓書を書いて署名をしたのではないのでしょうか。この宣誓書は、主権は国民にあり、そして日本国憲法を守って全体の奉仕のために職務に励む、そのような内容の宣誓書です。この宣誓書に書いてあることが、皆さんの公務員としての基本的な在り方でございます。

そこで、今日は1時間という限られた時間の中で、新しく着任された皆さんへ期待することは何なのか、皆さんに求められていることは何なのかということをお話しします。今、所長さんのお話にもありましたけれども、これからの地域の発展のために、皆さんの若い力が期待されている皆さんこそが地域を守り、そして住みよい社会をつくり、日本の国の発展のための原動力になる、このことが期待されているわけでございます。

私は村長になって、今2期目の最後、7年目に入っています。私は、村長になる前は専業農家でしたので、毎日、レタスや白菜を作っておりました。村長になって毎日ネクタイを締めて、決まった時間にお勤めをする、百姓の世界とは大分、違う世界で大変きつい思いをしました。今はネクタイも慣れてきましたけれども、このネクタイには大変抵抗がありました。職員の仕事を7年間見えてきて、皆さんにはこのようなことが必要だということを、このレジュメに沿って1時間、話を進めさせていただきます。

最初に、皆さんに求められているものの一つは、住民とのコミュニケーション能力でございます。皆さんは、毎日の仕事が、住民と接する、住民との対話、情報の伝達、連絡、そして意思疎通を図ること、これが皆さんの一番基本的な仕事になってきます。

皆さんの育ってきた世代は、とても便利な世代、情報化時代と言われておりますけれども、皆さんは、もう携帯電話は当たり前、そしてスマートホンなど、情報化社会の中で育ってきております。便利な社会の中で育ってきた反面、失くしたものもあります。それはコミュニケーションではないかと私は思ってお

ります。

私は子供が3人いるのですけれども、2人の娘が2人とも東京にいます。ツワリで苦しんでいるという電話があったものでリンゴを送ってやりました。「リンゴ大変おいしかった。ありがとう。」というメールが来ました。着信したばかりだから、直ぐに電話すると話ができるかと思って電話したところが、「ただいま電話に出ることができません。」という返事。このように皆さんの生活の中では、話すこと、これがあまり必要ではなくなってきた。コミュニケーションがこれからの皆さんにとっては大事な要素になります。コミュニケーション能力、これを第一番に上げました。

私が育った時代は、どのような時代だったか。私は72歳です。私が子供の頃、50年、60年ぐらい前ですか、その頃は電話はどこにも1つもなかった。テレビもなかった。ましてや、ゲーム機などもない。そして、一番の子供の楽しみといえば、外で友達と遊ぶことでした。学校から帰って来るとかばんを投げ捨てて表に出ると、たくさん友達が集まって来る、そして自分たちで遊びを考える、道具が、遊ぶものがないので、自分で作ったりして、わいわいがやがや暗くなるまで遊んでいた。それが一番の楽しみでした。今の皆さんの楽しみとは、皆さんの育ってきた世界とは、大変な違いです。

そのうちに電話が、集落に1軒だけ入りました。お店をやっている家。お店は毎日人がいますから、そこに公衆電話が入りました。その頃の電話は交換手と呼び出して発信先を告げる。電話が終わるとまた交換手が出て「ただいまの電話料金はいくらです。」とお店の人に告げるわけです。そこで、そのお金を払う。そのような時代でした。かけるときはいいのですけれども、逆に外からかかってきた場合、有線放送がその家にありまして、村中に「菊池さん、東京から電話ですよ。」と、村中に知れてしまうのです。そのような時代でした。

テレビもなかった。確かテレビが入ったのは、私が中学を終わる頃、昭和30年、今の天皇陛下がご成婚された頃だったと思います。東京で成功した方がテレビを1台寄付してくれました。私は分教場、分校育ちです。分校にその寄付してもらったテレビが1台入りました。白黒の小さいテレビ。それを見るのがとても楽しみだった。そのような時代に育った私と、皆さんの時代とは、雲泥の差であります。

これから皆さんはコミュニケーションを大切にしていって、住民の皆さんとの対話、これが何よりも大事な要素になってきます。2番目に、政策形成能力です。皆さんのこれからの仕事は、全てが住民へのサービス。法務、憲法や民法、或いは皆さんの自治体にはいろいろな条例があります。条例には施行規則もあ

ります。要綱などもあります。自治体の仕事はこのような規則、要綱、法律に則って進むわけです。

事業を立案し、予算を付けなければ事業はできません。昔は、読み書きそろばんが大切な要素だと言われました。それは今でも変わりません。文章を読む、それを理解する、そして文章を書く力。そして、それを事業化していくためには計算もできなければならない。数字にも強くななければならない。それが皆さんにこれから要求されている要素になってまいります。

先ず皆さんは、自分の町や村の財政規模、一般会計の当初予算が私の町や村はどのくらいなのか、そして自分の町では、26年度はどのようなことに大きなウェイトを置いているのか、そして自分の今のポジション、部署で関係してくる条例や規則、要綱はどのようなものがあるのか、暇を見て条例、要綱、規則、これを熟読して自分の中にしっかり収める。これからの皆さんの仕事上大切になります。

それと、もう一つ大事なことがあります。今、長野県は「しあわせ信州創造プラン」と言いまして、総合5か年計画に基づいて県の仕事は動いております。それぞれの皆さんの町村にも、中長期計画、総合計画というものがあると思います。これをしっかりマスターして、今、自分の村はどのような方向に進んでいるのか、どのようなことが求められているのか、そのことをしっかり知っておく必要があります。

もう一つ長野県が力を入れていることがあります。それはどのようなことかといいますと、「信州首都圏総合拠点活動」というようなことで、これから長野県を全国にアピールしていく、そのために首都東京のど真ん中、これは銀座の5丁目ですか、そこに活動の拠点を作る計画があります。多分8月頃にはオープンすると思えますけれども、そこを中心にして長野県を全国に売り出していこう。人、物、情報、これを全国に発信していく、その拠点作りに今大きな力を注いでおります。南牧村もここへ1人職員を派遣しております。

これからは高速交通網時代ということで、新幹線も金沢延伸、そして中部横断自動車道など、いろいろな高速道路、交通網がすごく発達する時代、情報化の時代の中で長野県をアピールする。その拠点を東京に置く。これは素晴らしい計画だと私は思っております。そのような中で、また皆さんの活動も一層飛躍する時代が来るだろうと思えます。

3つ目に、先端機器を使いこなせる能力です。これは皆さんの最もお得意とする分野だろうと思います。ソーシャル・ネットワーキング・サイト、SNSといいますか、このようなことで皆さんはもう既に子供の頃から、中学になれば1人1台パソコンの時代で教わってきたと思います。先端機器を使いこなせる能力は、もう既に備わっているのではないだろうかと思っております。

先ほどメールの話をしたけれども、メールは本当に用件のみを伝えるだけで、それでもう用は済みますね。今こうしている間にも、世界中に、要件を書いて送信ボタンを押すだけで相手に伝わってしまう。電波、言葉が世界中に飛び交っている。素晴らしい時代。私たちの世代には考えられなかったような時代でございます。

このような文明の利器、これを使いこなせる能力。昔は、役場の職員は全部手書き。計算もそろばんでやっていました。計算機が入って、これは画期的でした。今はそれを更に上回っています。素晴らしい時代です。これをフルに使いこなせることが大変重要になってくると思います。

今、パソコンの話をしましたけれども、パソコンは今、全国で750万台あると聞いています。ところが、これにも弊害がありまして、新規リースへの対応が難しくなってきたというようなことで、サポートが中止になりまして大量の買い替えが余儀なくされております。またコピー・アンド・ペーストと言いまして、人様の文章を拝借して切り貼りすることで、検索1つで右から左へと簡単にコピーができてしまう。そのような便利さもありますけれども、公的な論文などでやると、これは盗用に繋がります。今問題になっております新万能細胞、STAP細胞粉飾騒動、転用や切り貼りが今問題になっておりますように、このような問題も一方では抱えております。このような落とし穴も中にはあるわけですね。

何よりも皆さんの仕事はこのような機器を使いこなして、スピード感があって、しかも正確で確実な仕事でなくてはなりません。とかく役所仕事は手間どるというような非難もあります。何よりもスピード感が大事だと思います。急を要する事案には即対応し、それが正確で確実でなければならぬだろうと思います。そのようなことも皆さんに求められているところであります。

また、今いろいろなソフトがありまして、業務も電算化、電子化の時代になりました。そして、電算化の経費を削減するためにも、複数の市町村で、共同で利用したらどうかと、そのような話も持ち上がってきているところです。これから更にインターネットの全盛期を迎えるような中ですので、皆さんはこのような便利な機器を使いこなす能力を、しっかりと身につけて行っていただきたいと思っております。

4つ目はこの町を良くしていこうとする情熱、地域を良くしていこうとする情熱でございます。この町に住んでいて良かった、この町に住みたい。それには、先ず、そこに住んでいる自分が思わなければそのような町にはなりません。そのような町にするために頑張るといふ熱意が大事です。

地域の魅力をつくる。魅力や特色のない町村は発展していかないと思います。私の村ではこれが自慢できる、これが魅力だ、そのようなものを見つけ、そのようなものを作り上げていく、それが皆さんの仕事だと思います。皆さんはふるさとの行政のプロであります。プロとしての力量を発揮していただければと思います。

先ほど南牧村のことが紹介されましたけれども、南牧村の特徴は、ただ標高が高いだけではなくて、いろいろな良い点がたくさんあります。よそにはない、南牧村ならではのものがあります。それは何かとといいますと、時間があれば話させていたいただきたいと思います。とにかく自慢ができるもの、わが町、わが村で自慢ができるものは何か気が付かなくてはいけません。

そして、眠っている資源を掘り起こす、それも皆さんの大切な仕事になってきます。そのようなものがないと、この激動する社会の中で取り残されていってしまうのではないだろうか。何でもいから1つ、これはという自信のあるもの、これを作り上げるのが皆さんの仕事だろうと思います。

それと、次に5つめ、遊び心です。公務員は堅い仕事です。そしてストレスのたまる職場であります。たまには張りつめた気持ちを緩めて、友達とも楽しく明るい職場にして行くこと、これもとても大切なことだろうと思います。ストレスには、最近読んだ本の中で、6つのタイプがあると言われていています。これは受け売りですけれども、これを紹介してみたいと思います。

まず1番のタイプは、「おどおど型」だそうです。これは自信喪失ですか。何をやってもうまくいかないというように、おどおどしてしまう。このようなどころからストレスがたまる、これが1つです。

2番は「くよくよ型」。過去を悔恨する、失敗を引きずってしまう、後悔ばかりしてしまう、このようなストレス。「失敗は成功のもと」と言います。失敗を恐れないで、この次は成功させよう、そのように切り替えないとストレスはたまるばかりだろうと思います。

3番は「もんもん型」。これは未来への不安というようなことで、このようになったらどうしよう。もうやらないうちから先のことを考え過ぎてしまう。昔の言葉に「人事を尽くして天命を待て。」、やることをやったのだから良い結果

を待つ、そのような気持ちになっていかないとストレスは解消しません。4番は「へとへと型」。疲労こんぱい。これは全力投球でもう張りつめてしまう。そうすると、ストレスがたまります。肩の力を抜くことが、今とても大事ではないだろうかということです。

5番は「いらいら型」。これは完璧志向の人に多いそうです。思いどおりにならなくて悩む。自分の考えにこだわり過ぎてしまう。妥協できる勇気を持つと言われております。いらいらしないように。それもストレスの大きな元になってくると言うことです。私は前に聴いた講演の中で、「プライドが邪魔をしている。プライドを捨てるプライドを持て。」、これは峰竜太さんの講演の中で聞いた言葉でございます。「プライドを捨てなさい。その捨てる勇気を持て。」ということも1つの大事なことだと思えます。

最後の6番ストレスの型は「むかむか型」。これは人間関係を誤解などして、短気は損気ということがありますけれども、短期になってしまう。もっと冷静沈着に、感情に動かされることなく仕事をする。そうすると、ストレスも解消できるのではないだろうか。

以上6つのストレスのタイプがあるそうです。皆さんはこの中に1つか2つ、当てはまるのがあるのではないのでしょうか。とにかくストレスをためないように。ときには遊び心、これも大切なことでございます。気分一新して、そして勇気を持って仕事に励んでいただきたいと思えます。

レジュメには書いてありませんけれども、もう1つ大切なことは健康です。私もただ1つ、健康だけは自信があります。健康とは、肉体的にも、精神的にも、社会的にも健全な状態をいうという定義がございます。また「健康な肉体に健全な精神が宿る。」という格言もございます。やはり健康でなければ、仕事への意欲もでないし、良い発想も出て来ない。健康が第一だと思います。

私は、健康だけには自信がありまして、医療費は多分ゼロ。今は村長になったからインフルエンザのワクチンだけはやります。人にうつすと迷惑になりますからね。あとは、人間ドック。それと年に2回ぐらい風邪薬を飲むぐらいです。いたって健康です。健康の秘訣といえますか、健康について、もし時間があったら私の健康法を教えます。視力、聴力、いろいろありますけれども、腹筋、背筋、自分流でいろいろ教わったことを組み立ててやって、健康を維持しております。これから皆さんは、毎日決まった時間に毎日出勤する。健康でなければ務まりません。ストレスもたまります。心身の健康がまず何よりだと、私は思っています。

次に、これからの地方自治の課題でございます。皆さんはこの4月から、恐

らく定年退職までお勤めするだろうと思います。そうすると、30年以上、高校卒の方は42年、もしかして、皆さんが定年を迎える頃は定年延長ということもあろうかと思えます。

皆さんの人生の一番大切な時期を、公務員として、町のため、村のために働くわけでございます。その中で避けて通れない課題があります。その第一が、急速に今進んでいる人口減少社会です。これはもう既に突入していると言ってもいいと思います。

皆さんに渡した資料を見ていただきたいと思いますが、これは『信濃毎日新聞』に載った記事で、著作権の問題もありまして、信濃毎日新聞に許可を取っております。皆さんの市や町や村の人口を見てください。長野県ではたった1つ、南箕輪村だけが人口が増え、あとの市町村は全部人口が減って行きます。人口減少社会でございます。

日本の総人口も、2010年には1億2,800万人。これが2040年には8,600万人ぐらいになるだろうという推計が発表されています。このような中で長野県は、平均寿命だけは男女とも日本一で、男が80.8歳、女性が87.18歳です。

阿部知事さんが『長野県の長寿力』という本を書きました。この中に、なぜ長野県は平均寿命が日本一なのか、そして平均寿命も大切だけれども、いつまでも健康で長生きができる、健康寿命が大切だというようなことが、この本の中に分かりやすく丁寧に書かれておりますので、機会があったら読んでいただければと思います。

昔は大家族、3世代は当たり前でした。今は核家族。そして将来は一人暮らしの世帯が圧倒的に多くなる。確か2日ほど前の『信濃毎日新聞』に出ていましたけれども、世帯数の将来推計という中で、これから21年後、2035年には、一人暮らしの世帯が一番多くなる。37.7%。なんと東京、京都、大阪では40%になってしまう、一人暮らしの世帯が。長野県は31.3%。人口問題研究所ではこのような数値を公表しております。

人口が減って地方自治がどうにもならない。限界集落という村も出てきております。昨日の新聞でしたか、佐久市も10万人を割ってしまったという記事も出ておりました。特に中山間地といわれる農村部での人口減少が目立って多いわけですね。平成の合併というようなことで、町村合併が進みました。長野県は一番合併が進まなかった県です。長野県は村が断トツに多くて35村あります。北海道よりもはるかに多い。今、全国で村は183になってしまい、村がゼロ、1つもない県が13県あります。長野県も120の市町村があったのが、今は77の市町村になってしまいました。

このような中で、合併しないで頑張っている小さな村の村長さんが集まって、全国村長サミット、これは全国183の村長さんに木島平村の村長さんが呼び掛

けて、木島平村を会場にし、2年連続でやりました。そこに集まってきた村長さんたちのお話は、「今までできていたことができなくなってしまった。危機意識をしてこなかった。気がついたら大変なことになっていた。」というような話をされました。

どのようなことができなくなったか。皆さんの村でもあろうかと思えますけれども、まず、お祭りができなくなってしまった。盆踊りもできなくなってしまった。地域消防団も編成できなくなって、消防OBの皆さんが、非常時の場合にはハッピー着て出てもらう、そのような体制をとった。それと共同作業ができなくなってしまった。

太鼓保存会がだめになってしまった。いろいろな役員があつて、その役員の任期が切れたとき、新しい役員さんを選ぶのですけれども、引き受け手がいなくて困ってしまった。

そのような話がたくさん出されました。また、ある村の村長さんは、「わが家の10年後はどうなっているか。」というアンケートをやったそうです。それを集計してみて、驚いたそうです。家が断絶してしまう、一家離散してしまう、そのような家庭もあったそうです。これを見て、今まで気がつかなかった大変なことに気がつかされたと話されました。これから人口減少社会を迎えて、コミュニティの崩壊が大きな課題になります。少子高齢化時代。お年寄りが多く子供がいない、そのような社会の中で老人福祉、お年寄りの皆さんの福祉が大きな課題になってくると思います。そこで、今、一番多いのは一人世帯だと言いましたけれども、2番目に多いのはお年寄りだけの2人の世帯、それと、3番目に多いのは、親と結婚しない未婚の子供だけの世帯。自分の村や町を見てもそのような世帯があろうかと思えます。

南牧村も人口3,200人になってしまいました。世帯数は、別荘を除いて800戸ぐらいあります。一人暮らしの世帯が113世帯ありました。老夫婦2人だけの世帯もそれに続いて多くありました。とにかくこれから高齢化、少子化、これには歯止めがかからない。『信濃毎日新聞』の推計を見ても分かりますように、この佐久地域でも、なぜか小海町の人口減少が数字的に指数はかなり高いわけです。これはどのようなことか分かりませんが、このような時代の中で、皆さんがこれから自分の町や村をどのようにしていくかということが大きな課題になってきます。

また、2025年問題と言われておりますが、これはどのようなことかと言いますと、団塊の世代と言われた人たち、つまりベビーブーム時代に生まれた世代、この世代の人たちが2025年になると後期高齢者、75歳になります。このときがお年寄りの人口のピークだと。それを過ぎると、お年寄りもだんだん少なく



なってくるのではないだろうかという予測がされています。あと10年です。あと10年が高齢化のピークです。

それと、少子化、子供がなぜ生まれないのかということでございますが、それには結婚の問題があります。結婚しない。結婚も晩婚、遅く結婚するから晩産。そして、未婚率が、今、男性では20%、女性が11%ぐらいだという統計もあります。

では、なぜ結婚しないのか。結婚しても子供はせいぜい1人か2人。この間、フィリピンに行って来ました。フィリピンでは平均子供は5人だそうです。日本はなぜ少ないのか。それは、子育て世帯が低所得で、大勢産んで育てるだけの余裕がないということが、大きな理由にあげられていると言われています。

高齢者が暮らしやすいまちづくり、そして安心して子供を産み育てることができるまちづくり、これがこれから皆さんに課せられた大きな課題の1つになるのではないかと思います。

元気なお年寄りがいるところもあります。これは四国の徳島県の上勝町、ここは私も行って来たのですが、ここは葉っぱビジネスで町を再生させたという町です。食のつまにする葉っぱを売っているのです。平均年齢が67歳、女性が中心だということです。年収1,000万円を上げている人もいます。お孫さんに乗用車を買ってあげるような、そのような元気のある村もあります。そのような元気・活力をこれから自分たちの村で見出していく、それが皆さんの肩にかかっている大きな課題ではないでしょうか。

また、子供が少なくなってくると大変な問題があります。それは教育です。学校の在り方です。今、長野県の中で小学校の統廃合が進んでいます。佐久穂町では、4つあった小学校を1つに。小海町も2つあった小学校が1つに。そして、旧臼田町も小学校の統合が考えられている。保育園・幼稚園も統合していかなければならない。そのような問題もこれから大きな課題になってきます。

南牧村には、私が子供の頃は分校が3つありました。私は広瀬という分校だったのですが、4年生まで分校で5年生から汽車通学で本校に通いました。私は17年生まれですが、私の広瀬分校の同級生は19人いました。今は南牧全体を合わせても、1学年20人そこそこです。そのような昔は分校が3つあって、立派に成り立っていたわけですね。今ではもう学校が成り立たない、そのような状況。これは教育上の問題で、果たして統合がいいかどうかはまた別問題ですが、統合せざるを得ないような状況があります。

自治体にとって人口減少は重大な課題です。しかし、決して私は悲観することはないと思います。この状況は、この統計を見ても避けては通れません。避けて通れないからには、ピンチをチャンスに変えなければならない、本当の豊

かさや幸福を実現していくための大きな転換点としていく。皆さんで知恵を出し合って、このような問題をどう解決していくか。避けられない問題を避けるわけにはいかない。それには前向きにチャレンジしていくしかないと思います。

今、幸せという問題、本当の幸せ、本当の豊かさという問題を話しましたが、前にブータンから若い国王夫妻が日本を訪問されました。さわやかな印象とともに、人間の生き方や本当の豊かさについて、考える機会を私たちに与えてくれました。ブータンでは、健康や幸せ、環境を重んじる国民の総幸福度を基本とした国づくりをしているそうです。日本は国民総生産GDPを中心にした国づくりです。日本は、GDPでは世界第2位といわれていますが、幸福度では世界178か国中90位だというような新聞記事を見たことがあります。ブータンやデンマーク、スイスなどは幸福度の高い、国民総生産よりも国民総幸福度を重視した国づくりをしていると聞いています。福祉や子育て政策の充実などが幸福感に繋がってくるだろうと言っています。

また、長野県の、これは先ほどの話の続きですけれども、阿部知事さんも『長野県の長寿力』というこの本の中で、「幸せに暮らしているから健康なのか、健康に暮らしているから幸せなのか、卵が先か、鶏が先か、まさに表裏一体だ。」と書いております。日本総合研究所が「全国が一番幸せな県はどこか。」という数値を出しています。この本の中にそれを書いてありますけれども、昨年度は長野県が全国で一番幸せな県だと言われていました。

その幸せの指標は何か。5つの指標を挙げております。1つは健康、そして2つ目は文化、文化を享受する。3つ目が仕事、そして次は生活、快適な生活かどうか。それと、教育、教育の環境はどうか。この5つの指標を総合して、1番に長野県になったそうです。

仕事のこと言いますと、今から100年ほど前、福沢諭吉さんが『学問のすすめ』。この本を読んだことがありますか。福沢諭吉さんは、「一番幸せなことはどういうことか。それは生涯を貫くことができる仕事を持っていること、これが一番幸せだ。」と。一番不幸なことは何か。「する仕事がない。」これが一番不幸だそうです。

確かに今、雇用の問題が社会問題になっております。非正規労働者や、臨時雇いや、そして低所得、このようなことが今大変な社会問題になっています。一番幸せなのは、自分はこれだという生涯を貫くような仕事にありついたら、それが一番幸せだそうです。皆さんはその点では、今、幸せをつかんだばかりだと私は思います。その幸せを持続させていっていただきたいと思います。

次に移ります。次は、避けて通れない問題。それは食糧、環境問題です。21世紀は、食糧や環境問題を真剣に考える世紀だといわれています。人間が生きていくためには必要なもの、それは何といても食糧であり、水です。食料、水がなければ、生きていけません。そしてまた、何よりも環境、生きていくための快適な自然環境が大事だと思います。大変な状況になっています。特にその中の食料ですけれども、今、皆さんは飽食の時代に生きています。皆さんは恐らく、食べるものがなくて空腹でひもじい思いをした、そのような思いをした人は一人もいないと思います。

私の子供の頃はお米が非常に大切に、「お米を粗末にすると目がつぶれる。」と言われて育ってきました。学校から帰ってきてても大したおやつはなかった。コウセンを多分皆さん知らないと思います。コウセン、これは何かというと、米や小麦をフライパンで煎（い）って——「煎る」ということは分かるね——それを粉にして、そこに砂糖を混ぜて、それが新聞紙にくるんであって、学校から帰ると子供の数だけあって、それがおやつでした。これをコウセンといいますけれども、今、恐らく皆さんの世代はそのようなものは知らないと思います。コウセンの中には、砂糖が入っていた。砂糖もそれほどなくて、コウセンの中に砂糖の小さな塊があるとラッキーという気持ちで大変喜んだことを覚えています。

食料がなくなる。うそのようで本当の話が、今、目前に迫っています。食料自給率という資料があるかと思えます。それを見てください。この表の見方ですけれども、一番上に昭和40年度から平成24年度まで、年度を追って、米や、麦や、大豆、芋類、肉、これの自給率が数字で示されています。食料、供給熱量ベースの総合食料自給率、この欄を見てください。39とあります、24年度。日本のカロリーベースでの食料自給率は39%しかない。あとの60%は、外国から買ってこなければならぬ。そのような状況にあります。

この表の一番下を見てください、この中。これは農水省が発行した資料ですけれども、いざというときのために、もし外国から食料が一つも輸入することができなくなった場合、どのような食事形態になるかということが一番下から2行目のところに書いてあります。これによりますと、朝食はご飯茶わん1杯、ぬか漬け1皿、ころふき芋1皿。昼食は焼き芋2本、ふかし芋1個、リンゴ4分の1相当の果物。夕食はご飯茶わん1杯、焼魚一切れ、焼き芋1本。もし外国から食料が一つも入ってこなければ、このような食生活にならざるを得ない。自給率が40%では、1日3食のうちの1食と少しぐらいしか、食料が日本の国にはない。

今、外国にたくさんあって、お金を出せば何でも買える時代ですけれども、

これから先、外国にも食料がなくなる時代が来る。今TPPなどと言って、関税を撤廃して外国の安い農産物がたくさん日本に入って来るような状況にありますけれども、もう何年か先になると、外国にも食料がなくなってしまう。そうになると、買うことができない。そうすると、今言ったような、朝食はご飯茶碗1杯ぐらいしか食べられない、そのような時代が来るのではないかと農水省は警告しております。

なぜ食料がそれほどなくなってしまったのか。それはいろいろありますけれども、皆さん、身の回りを見てください。農業をやる人がいなくなってしまった。今まで水田だったところが荒れ放題になってしまった。農業の担い手がいなくなり、農地がなくなってしまった。この前、世界農業者機構という総会がありまして、そこでアルゼンチンの代表が「農業者がいなければ食料はない。農業者がいて食糧があるから未来がある。」という発言をされました。今、食料を生産するには、生産する農民、農地がなければだめです。これがどんどんなくなってきました。

また、農業は生命産業とも言われておりますように、これは川上村長さんの名言です。ただ単に食料を生産するだけではなくて、この自然、国土保全のためにも農業は大きな役割を果たしている。まず水田は水源涵養、水がめであってダムのような働きをして洪水調節もしている。また、水田は多様性生物の宝庫でもある。そういう点で国土保全と食糧生産を果たしているのは農業である。この農業が今危機的な状態です。農業が衰退し、そして農山村が過疎高齢化になってくると、自然を守れなくなってくる。

水資源白書で、水がそのうちになくなってしまう。水源危機になると警告されている。今この佐久地域では、11市町村、そこに東御市も加わり水資源を守ろうという協定を結びました。水は個人のものではなくて、皆さん全員のものである、公の水、公水と位置づけて、この協定を結びました。去年は水資源全国保全サミットを佐久市で開催しました。

川上村では、川サミットも開催して、これから水と食料、を守ることがとても大切だということを確認しました。8月1日は水の日です。そしてまた、信州山の日、これも7月の第4日曜日に制定するという運びに今なっているそうです。

それと、時間がなくなりましたので少し急ぎますけれども、食料がなくなるもう1つの大きな原因は、地球の温暖化、異常気象です。夏は非常に暑く、また冬は逆に寒い、この異常な気象。野辺山高原は、今までは30度を超えることはほとんどなかった。ところが、ここ2、3年、30度を超えるのは当たり前になりました。昔は扇風機もクーラーも必要なかったのですけれども、今は扇風機ぐらい必要になってきました。

地球温暖化というから冬は暖かいかと思えば、全体には暖かくなってきているが、異常に寒い日がある。冬も非常に寒い。3月7日には、野辺山高原ではマイナス25.3度。これは観測史上初めてで、3月のこの時期にマイナス25.3度というのは、日本中で一番寒い気温だったそうです。ゲリラ豪雨や集中豪雨、今までに経験したことがなかったというような災害が起こっています。このまま進むと、今世紀末には、平均気温が4度以上上昇する。海面も北極、南極の氷が溶けるから、水面が上がって日本の最南端の島、沖ノ鳥島などは沈んでしまうのではないだろうかという警告もされています。

また、この異常気象が農業にはどのような影響を与えているかと言いますと、先ず、主食であるお米、これがだんだん作りにくくなってきた。今、五郎兵衛米、あるいは魚沼のコシヒカリ、このお米の産地がだんだん移動いく。寒いところの方が良くできるようになってきた。北海道のコシヒカリが良くできるようになってきた。一等米の質がどんどん落ちてきて品質が悪くなってきた。これも温暖化の影響だと思えます。

それと、リンゴの色づきが悪くなってきた。暖かいので、なかなか真っ赤な色にならない。それと、温州みかん、日焼けしてしまってミカンの主産地が、もう栽培が困難になってきている。そして、ブドウの産地、山梨県では、眠り病ということで春先になってもブドウの新芽、若葉がでてこなくて、枯れてしまう。これは冬が暖か過ぎて、十分な休眠ができないということが原因の1つにあげられております。また、私の村のレタスやキャベツなど、高原野菜、これも夏の高温で生理障害などを起こして、だんだん作りにくくなってきています。また、害虫も越冬して残ってしまうので害虫も増えてくる。野辺山には国立天文台があります。宇宙電波と太陽電波の観測をしています。その天文台の先生に聞いたのですけれども、最近、太陽の活動がかなり弱まってきているということで、これも異常気象に影響するのではないだろうかということの研究を、これからしていくそうです。

このように地球温暖化も大きな問題になってきています。また、今中国でPM2.5 というようなことで、テレビなどを見ても、マスクをして、前の視界がきかないというような大気汚染が進んでおります。このようなことも、これからの21世紀、避けて通れない大きな課題ではないかと思っています。

また、最近、鳥インフルエンザの話が出てきて、鶏を11万羽も殺して埋めてしまったというようなことがあります。それより前にはO157の問題、そして、牛のBSEの問題など、食料を生産する環境も大変悪くなってきています。また、最近の新聞を見ましたら、豚の流行性胃腸病がアメリカでは大流行していて、豚がかなり死んでしまった。日本は豚肉の大半をアメリカから輸入しています。今年の夏は豚肉が値上がりするのではないだろうかというような

ことも、今、心配されているところです。

このように、今、食料、水、そして人間が快適に住む環境、これが脅かされてきている、これがこれからの大きな課題になってきています。避けて通れない問題です。このような中でどうするか。高齢化社会、少子化社会、そして食糧問題、水問題、環境問題があります。このような問題が、これからの皆さんの、多分、今日、明日の問題ではないけれども、これからの大きな課題として立ちほだかってくるのではないかと思います。

最後になりますけれども、皆さんは新入生でございます。何でも先輩に分からないことは聞いてください。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥。」と言います。後になると聞きにくくなります。今ならどのようなことを聞いても恥ずかしくないと思います。分からないことは聞く。知らないまま過ごしてしまうと、それはあとで大変な思いをする。私の経験からいって、そうです。

私も村長になったばかりのときに、職員の皆さんに「私を裸の王様にしないでくれ。」と、『裸の王様』という童話を読んだことがありますか。ない人がいるかもしれません、アンデルセンの。「私には遠慮なくいろいろ注文してくれ、裸の王様にしないでくれ。」と言いました。皆さんも分からないことは率直に聞く勇気を持った方が良いと思います。今なら許されます。これが何年かすると、聞きづらくなります。今ならどのようなことでも聞けるということで、聞いてください。

そして、最後になりますけれども、初心を忘れないように。皆さんは今、大志を抱いていると思います。この気持ちを忘れないように。私も村長になって、マンネリかしないように絶えず初心に戻ってやっております。私が読んだ本の中で、人間は歩くことを覚えると転ぶことも覚える。転ぶことを覚えると、そのことによって、さらに歩くことを覚える。つまり、失敗は成功のもとであり、失敗してつまづくことによって成長していく。失敗を恐れなくて、初心に戻って、初心を大切に、そして、自分が信じている自分の思いを大切に、これから日々成長して行ってください。皆さんの若い力がかかっております。このことに自信と誇りをもって進んで行っていただきたいと思います。

ちょうど時間となりました。私の健康法を少しだけ紹介しますか。まず視力です。首から上のことだけ言います。まず目玉。これを上下、上へやったり下へやったり。首を動かさなくて目玉だけ。次は左、右。そして、ぐるっと右回り、左回り、目を。最初はなかなかできないので鏡を見ながらやれば良い。それを何回か繰り返す。次は、鼓膜への振動、聴力。これは親指が良いかな、親

指でこのところをぐっと押さえて真空状態にしてポッと離す。やってみてください。鼓膜がしびれると思います。キューッと押してぼっと離す。鼓膜がびんとしびれませんか。やり方も、耳をこのようにしてもいいのだけれども、鼓膜を振動する、これが聴力を高め難聴になりにくくなるそうです。

それとあと、あご。食事、かむ力を強めるためのあごの運動です。上下に大きく口を開けたり閉じたり。あごをこのような感じでぐらぐらっと左、右に動かす。そして、舌を出したり引っ込めたり、苦しくなければぐるっと回す。そして次は首。年を取って急にやると首が回らない人がいますけれども、首を前後、そして右を見て左を見る。そして肩へ右、左にたおす。次にぐるっと回す。右回り左回り。これを何回か繰り返す。それとあと、顔のマッサージ。このような感じで100回ぐらい毎日やってください。顔のつやも良くなるし。それと、鼻もこれ両方をこのようにやると、聞いた話だけれども、今、胃カメラの代わりに鼻からカメラを入れますね。そのときに鼻にカメラが通らない人が1年間これをやっていたら通るようになったと、そのような話も聞きました。これは持続、三日坊主にならないように続けることが大切です。

食欲と性欲は人間の本能で自然に備わっていますけれども、運動する欲は自分の努力次第、努力しないと続かないと言われていています。食欲、そして体力、これもつけることが大事だと思います。私の健康法、あと腹筋、背筋、いろいろな体操がありますけれども、それは今日できませんので、またの機会にしたいと思います。

どうも1時間、ご清聴ありがとうございました。これで終わります。